

中谷 巖 Iwao Nakatani

田坂 広志 Hiroshi Tasaka

山田 昌弘 Masahiro Yamada

永田 良一 Ryoichi Nagata

渋谷 健 Ken Shibusawa

黛 まどか Madoka Mayuzumi

川上 量生 Nobuo Kawakami

新・資本主義

7つの未来設計図

Kazuo Mizuno, Motohisa Furukawa

水野和夫 / 古川元久 編

宣言

七賢人と共に描く日本発の「第三の軸」。

推薦図書リスト46冊付き

有史以来はじめての課題に直面している我々人類のために

「近代の秋」における 成熟を問う。

毎日新聞社

定価：本体1600円(税別)



古川元久 (ふるかわもとひさ)

1965年生まれ。88年、東京大学法学部卒業後、大蔵省(現・財務省)入省。93年、米国コロンビア大学大学院留学。94年、大蔵省退官。96年、民主党結党に参加し、衆議院議員選挙初当選。以後、6期連続当選(愛知2区)。この間、内閣官房国家戦略室長兼内閣府副大臣、内閣官房副長官、国家戦略担当大臣・内閣府特命担当大臣(経済財政政策・科学技術政策・行政政策)などを歴任。また開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の同時解消をめざす日本発の社会貢献活動を行うNPO法人「TABLE FOR TWO」や、東日本大震災で被災した子どもたちに対し、次世代を担うリーダーとなるための教育プログラムを提供する「BEYOND Tomorrow」プロジェクトを実施する一般財団法人「教育支援グローバル基金」の創設に参加。著書に、「はじめの一步」(PIIP研究所)など。

「新しい資本主義」を考える上で、考えなければならないことのひとつが「成長のあり方」です。

資本主義に不可欠な要素のひとつは「経済成長」です。成長しない経済は、もはや資本主義とはいえません。その意味ではしばしば「さらなる経済成長は必要か」という議論が行われますが、資本主義を前提とする限り、この議論はあまり意味があるとは思えません。むしろ問われるべきは成長が必要かどうかではなく、成長の中身がどうあるべきかです。しかしそのためにはまず、そもそも「なんのための経済成長か」を確認することが重要です。

(序/「新しい資本主義」を考える 古川元久/より)